

北塩原村ゼロカーボンシティ宣言

地球温暖化は、人類の生存基盤に関わる深刻な環境問題の一つであり、温室効果ガスの排出量を抑制することは、世界共通の課題となっています。

このような中、国際的な動向として 2015 年に「パリ協定」が採択されました。また、国内においては 2020 年、政府が「2050 年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指す」ことを宣言し、国家レベルで産業構造の大転換と力強い成長を生み出す政策に取り組むこととしました。

北塩原村は、広いエリアが磐梯朝日国立公園に指定され、裏磐梯、五色沼湖沼群に代表される風光明媚な自然景観と、村民が育んできた里山景観を形成する年間約 200 万人もの観光客が訪れる県内屈指の観光地です。私たちは、先人から受け継いだ恵み豊かなこの環境を、次世代に引き継いでいく責務があります。

村民、事業者、行政そして観光客をはじめ村とつながる全ての活動主体が一体となり、地球温暖化対策に取り組むことで、大きな効果が期待されます。持続可能な北塩原村を築くため、ここに、2050 年までに二酸化炭素排出量を実質ゼロとする「カーボンニュートラル」の実現を目指すことを宣言します。

令和6年3月29日

北塩原村長

遠藤和夫